



“よねやま”から広がる新しい世界 ⑧

Eクラブで初めての米山奨学生



福山ロータリー Eクラブ 2710
(第 2710 地区)

カウンセラー

池田 潤治 さん

世話クラブまでの道のり

ヴィーちゃんとの出会いは、今思えば偶然ではなく必然でした。私が非常勤講師を務める広島県福山市の福山 Y M C A 国際ビジネス専門学校で、チューターとして担当した留学生が、ヴィーちゃんでした。ベトナムから誰も知らない福山に来て苦労していたと思いますが、「私には目標があるので、どんなにつらくとも耐えます」と熱く語る彼女は、とても人間力にあふれた留学生でした。

彼女が米山奨学生に合格したと聞いた時、私はクラブ理事会で頭を下げ、「世話クラブになって、私にカウンセラーをやらせてほしい」と頼みました。すぐに賛同は得られましたが、そこから先は難航しました。Eクラブが世話クラブになるという前例がなく、地区にも戸惑いがあったのでしょう。しかし、粘り強く交渉を重ねた結果、近隣の福山南ロータリークラブ(RC)にサブ世話クラブとして協力してもらうことで、ようやく世話クラブとして認めてもらうことができました。

奨学生との交流で変わる会員の意識

Eクラブは例会をインターネット上で行うため、ヴィーちゃんとの交流や奨学金の授与は、理事会や懇親会、奉仕活動などの機会を利用。今年3月にロータリーデーとして行った東日本大震災復興支援のライブイベント(右写真)では、一緒にステージに立って絆を深めました。

また、彼女にはいろいろなクラブを知ってもらいたいと、福山南RCをはじめ近隣のクラブと一緒に訪問し、そこで奨学金を渡してもらうようにしました。いろいろ

なクラブを見ることで、彼女のロータリーに対する理解も深まりましたし、同時にそれらのクラブで、Eクラブに対する理解を深めてもらうことができましたと思います。

会員の意識も確実に変わりました。ヴィーちゃんを通じて、みんなが留学生というものを理解し、米山記念奨学事業への理解も進みました。新しい会員にとっては、ロータリーの楽しさや魅力を知るきっかけになったようです。仕事とクラブとの両立に悩んでいた会員が、彼女との交流でロータリー活動の面白さに目覚め、生き生きと取り組むようになった例もありました。私自身、親の介護で退会したロータリーへの復帰を決めたのは、また米山に関わりたいたいとの思いからでした。カウンセラーを務めたこの一年は、かけがえのない時間でした。

Eクラブとして、モデルを確立したい

努力が実を結び、ヴィーちゃんは今春、横浜国立大学経営学部合格しました。クラブでは送別会を開き、旅立ちを祝いました。彼女には今後もロータリーと交流を続け、将来はロータリアンになってほしいと考えています。

クラブでは4月から、2人目の米山奨学生を受け入れています。Eクラブの形はさまざまですが、世話クラブとして一つのモデルを確立したいと思います。それが、米山記念奨学事業への理解を促すことにつながれば、こんなにうれしいことはありません。私は今、米山の支援をはじめロータリーの活動を、心から楽しんでいます。



ステージに立つヴィーさんと池田さん

Eクラブとして初めて、米山奨学生の世話クラブに手を挙げた福山ロータリーEクラブ2710。奨学生となった、レ・ゴック・バオ・ヴィーさんは、支援してくれる会員の気持ちに応えたいと努力し、見事、第一志望の大学に合格。彼女との交流は、同時に会員の奉仕の意識を変えていったそうです。カウンセラーを務めた池田潤治会員が「かけがえのない時間」という奨学生との一年間を、思い出とともに二人に語っていただきました。



米山学友
レ・ゴック・バオ・ヴィーさん

出身：ベトナム
奨学期間：2014 - 15
学校名：福山YMCA
国際ビジネス専門学校

送別会の思い出を心に刻んで

米山奨学生として過ごした一年間は、心に残る出来事の連続でした。最も感動したのは、送別会でクラブの皆さんからのメッセージを聞いた時です。一人ひとり、私との思い出を話してくれるのを聞いて、皆さんがいかに私のことを大切に思ってくれていたか、あらためてわかりました。カウンセラーの池田さんはあいさつの途中で涙を抑えきれず、「ヴィーさんから横浜国立大学合格を聞いた時は、息子が司法書士試験に合格した時と同じく、体が震える思いでした」と語ってくれました。本当の娘のように心配してくれた思いが伝わり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

まだ日本語がよくできないころ、「横浜国立大学に入りたい」と言うと周囲の人に笑われましたが、池田さんは笑うどころか私を励まし、一生懸命に応援してくれました。経済に詳しい会員の方との勉強会を開い

てくれ、本や資料もたくさんいただきました。その気持ちに応えたいと私もベストを尽くし、第一志望校に合格できました。池田さんと出会わなかったら、今の私はいないだろうと、この日の感動を心に刻んでいます。

いつでもどこでもつながりを感じられる

大学進学を機に福山を離れましたが、ロータリアンの皆さんとの交流が終わったわけではありません。福山ロータリーEクラブ2710は、例会をインターネット上で行っていますから、いつでもどこでも皆さんとつながることができます。毎週、クラブのホームページで、皆さんからたくさんの温かいメッセージがあり、今も変わらず支えてもらっていると感じています。

将来、国際経営コンサルタントになって、ベトナムと日本の企業間の提携や貿易を促進し、また母国のスラム街の状況改善にも貢献したいと思っています。夢の実現に一步近づけてくれたロータリアンの皆さんに心から感謝し、これからも全力で頑張りたいと思います。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



台湾米山学友会に多額の寄付

第3480地区・台北仁愛RC会員の蔡衍榮^{サイエンエイ}さんは今年2月、第2580地区（東京都・沖縄県）の地区大会に国際ロータリー会長代理として出席した際、「日本人に奨学金支援をしている台湾米山学友会のために」と、同学友会に贈る60万台湾ドル（約230万円）の小切手を委託。4月18日に第3480地区の地区大会で、第2580地区の鈴木喬ガバナーエレクトから同学友会理事長の林維宏^{リンウェイホン}さんに手渡されました。この寄付により、今年の「日本人若手研究者対象奨学金」の採用数は従来の2人から4人になることが発表されました。なお、蔡さんは2008年5月の第1回日台ロータリー親善会議の際、米山記念奨学会に300万円を寄付しています。



寄付を手渡す蔡さん（左）